

氏名	高 杉 仁
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	甲 第 178 号
学位授与の日付	昭和41年 3 月31日
学位授与の要件	医学研究科外科系整形外科学専攻 (学位規則第 5 条第 1 項該当)
学位論文題目	Volkman 拘縮の臨床的研究
論文審査委員	教授 児玉俊夫 教授 大内 弘 教授 山本道夫

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

Volkman 拘縮を、筋肉の変性範囲より 4 型に分類した。前腕の深層の屈筋に変性が見られるものを I 型とし、浅層の屈筋に変性の及んだもので、手根筋にはあまり変性が見られないものを II 型、それ以上の広範な変性が見られるのを III 型とし、IV 型は手の intrinsic muscle に変性の限局したものである。これは Volkman 拘縮の場合、深層の筋肉の変性が最も高度であり、浅層の筋肉ほど軽度であることに注目した新しい分類であり、各型の治療法の確立につとめた。I 型には release operation, II 型には腱移行術、III 型には拘縮の軽いもの、またいくらか軽減できたものに腱固定術が利用されてよいであろう。IV 型には、首間筋が lateral band に移行する部において、transverse fiber を含めた全切離と volar plate の剥離が必要である。病因に関して、一次的な筋肉の拘縮を来す異型例のあることが、症例の検索により明らかとなった。

昭和41年 3 月 1 日発行中部日本整形外科災害外科学会雑誌第九巻第一号に掲載予定

論文審査の結果の要旨

高杉仁提出の「Volkman 拘縮の臨床的研究」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は、次の通りである。

高杉の研究は、岡山大学整形外科教室の過去10年間の症例についてなされたものである。これは、現広島大学津下教授とともに術前の診断、手術、予後調査と一環してなされている。

著者は、Volkman 拘縮をⅠ～Ⅳ型に分類した。Ⅰ型からⅢ型までは軽症、中等症および重症の3段階でⅣ型は前腕筋でなく、手掌部の固有筋に限局した筋肉変性を有するものである。各型について病理組織像に立脚し、理論的の手術方法を建て、その結果が示された。

以上の通り本論文は新しい知見に富み、学術上有益であり、著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有すると認める。